

令和二年四月
春号

Vol.11

響きあい

みんなの「生きる」を
社会福祉法人




老人福祉施設カリヨンの郷
施設長 早川直也

令和二年度を迎えるにあたって、私の勝手な思い過ぎかもしれませんが、最近の人は応用がきかないように思っています。便利さに慣れすぎて、基本的な部分が押さえられてないため、少し作業に関して不具合が出ると、機械が壊れたと大騒ぎします。

◇ ◇ ◇

先日も「笑い話」になりますが機械が壊れたと騒いでいましたが、結果コンセントが刺さっていなかったこともありました。カレンダーが無いと、日にちも分からなく、時計が無ければ、何もしない。

これまでの人は朝、目が覚めると一日が始まり、太陽の動きに合わせて一日が過ぎていきます。おなかが減れば食事をとり、夜になり暗くなれば仕事を終え、就寝するなど。

目の出と日の入りに合わせた生活でした。また、淡々とした毎日でした。娯楽も特になく、シンプ

ルな生活に徹し、私も自宅にスマホを忘れた時に、連絡が来なくて困ったこともありました。

◇ ◇ ◇

これまで、スマートフォンを使って、位置情報を確認しながら「カリヨンの郷」に向かってくる若者がいました。結果では、所在不明になりこちらから探して、事なきを得たこともありました。

令和二年度は、お蔭様で介護職八名に加え、保育士三名の新採用が決まりました。

今後は社会人としての一年目に加え新採用職員の受入れを永い眼をもって育てていきたいと思っています。

その際に一番大切なこととして、「カリヨンの郷基本六項目」の徹底を図ることだと思っています。

